

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		豊島区立郷土資料館運営委員会
事務局（担当課）		文化商工部 文化デザイン課
開催日時		令和7年3月5日（水）14時00分～16時00分
開催場所		としま産業振興プラザ3階 研修室2
議 題		1. 委員委嘱、委員長互選 2. 令和6年度の事業報告・予定 3. 企画展「新・豊島風土記展」の見学・講評 4. 令和7年度の事業計画について
公開の 可否	会 議	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	・浜田弘明（桜美林大学資格・教職センター教授） ※委員長 ・原田 光（KAITA EPITAF 残照館（旧「信濃デッサン館」）館長お手伝い、元岩手県立美術館館長） ・宮瀧交二（大東文化大学文学部教授） ・野村佳男（豊島区立長崎小学校校長） ・小池陸子（郷土資料館友の会会長） ・長佐古美奈子（学習院大学史料館学芸員、豊島区文化財保護審議会委員） 欠席
	事 務 局	・文化デザイン課長 ・郷土資料館長 ・芸術文化推進グループ係長（学芸員） ・郷土資料館管理運営グループ主査（学芸員） ・学芸研究員 11名

審 議 経 過

事	務	局	お待たせいたしました。本日は雨の中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、豊島区立郷土資料館運営委員会を開催いたします。 郷土資料館長の八重樫と申します。本委員会は公開の会議となっております。委員の皆様にご確認いただいた後に会議録を公開させていただきます。それでは委員会の開催に先立ちまして、文化デザイン課長よりご挨拶をさせていただきます。
文化デザイン課長			皆様、こんにちは。豊島区文化デザイン課長をしております、大曾根と申します。本日、文化商工部長の渡辺が出席予定だったのですが、他の公務が急遽入りまして欠席とさせていただきます。年度末のお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。 まず、豊島区が来年度以降、大きく変わります。令和7年度は組織体制が大きく変更となります。この郷土資料館、文化芸術推進グループは今、文化商工部文化デザイン課に所属しておりますが、来年度は文化商工部が文化スポーツ部と産業観光部に分かれます。さらに、文化デザイン課がとしま未来文化財団、文化施設の管理をする文化企画課。文化財、文化イベントと郷土資料館を所管する文化事業課に分かれます。教育委員会から文化財グループが郷土資料館と一緒に文化事業課に加わりまして、運営を進めていく予定になっております。 令和7年度以降、現在、議会で審議中でございますが、基本計画、基本構想を新たに作成しております。文化行政、文化の部分については次世代を担う子供たちが気軽に文化芸術に触れて体験できるイベント事業を実施していくという形で大きく方針を掲げております。 現在、郷土資料館では親子でワークショップ「貝合わせを作ってみよう！」や「つるしびなを作ってみよう！」、雑司が谷旧宣教師館でも『『赤い鳥』と楽しむ、おはなし会』といった様々な子ども向けイベントも実施しておりますがこれまで以上に子ども向けイベントを実施していきたいと考えております。 最後になりますが、本日、7階で開催中の令和6年度開館40周年記念企画展「新・豊島風土記」をご覧ください。時間も設けておりますので、ぜひご覧いただければと思っております。委員の皆様には引き続き、郷土資料館へのご意見、ご教示賜りますようよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、私からのご挨拶とさせていただきます。
事	務	局	続きまして、事務局を自己紹介の形でお伝えさせていただきます。 (事務局紹介)
事	務	局	それでは続きまして、次第1の委員の委嘱に入らせていただきます。委員の委嘱期間は令和6年4月1日から令和8年3月31日までの2年間になります。委嘱に入りたいと思います。 (委嘱状交付)
事	務	局	委員の皆様、ありがとうございます。それでは、委員の委嘱が終わりましたので、委員長を選出に入りたいと思います。委員の皆様、いかがでございますか。
B	委	員	浜田委員にぜひお願いできますでしょうか。
事	務	局	浜田委員、いかがでございますか。
浜	田	委	承知しました、よろしくお願いいたします。
事	務	局	では、浜田委員、委員長席をお願いいたします。
			それでは、委員長は議長ということになりますので、次第2の令和6年度事業報告から浜田委員長に進行をお願いいたします。
浜	田	委	では委員長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします
員	長		

事 浜	務 田	局 委	員 長	す。まず、議事に入る前に傍聴者はいらっしゃるでしょうか。 本日、傍聴の方はいらっしゃいません。 わかりました。では、順次進めていきたいと思います。令和 6 年度の事業報告について事務局から説明をお願いいたします。
事	務	局		令和 6 年度事業報告をさせていただきます。郷土資料館、雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館、トキワ荘通り昭和レトロ館の各担当学芸員よりご説明いたします。
事	務	局		お手元の資料 4、令和 6 年度郷土資料館事業報告です。まず、具体的な事業の説明の前に、休館日の変更が昨年 10 月 1 日にありました。今まで郷土資料館と分館である鈴木信太郎記念館、雑司が谷旧宣教師館、トキワ荘通り昭和レトロ館の 4 館は、休館日と館内整理日が統一されていませんでした。外部からも色々な意見もありましたし、内部でも議論がありまして、昨年 10 月 1 日から規則の改正をいたしまして、4 館とも同じ開館日・休館日という形に統一いたしました。2 つ表がありますが、上が規則改正前のもので、下が規則改正後ということになります。年末年始も不揃いの部分がありましたので統一しました。 次に具体的な事業の報告になります。昨年 6 月 18 日に郷土資料館は開館 40 周年を迎えました。令和 6 年度の展示会につきましては、「開館 40 周年記念」というタイトルを冒頭につけて開催しております。まず、開館 40 周年記念新着資料展「それぞれのメモリー」を令和 6 年 4 月 19 日から 9 月 8 日まで実施いたしました。展示内容は令和 5 年度に寄贈された明治から昭和期の絵はがき類、広告や包装紙等のスクラップ、それから蕎麦店浅野屋さんの資料ですとか、戦中戦後の生活、出征、教育関係の他、昭和 40 年代の大塚駅周辺と都電などの写真を展示する内容になります。 2 番目は開館 40 周年記念収蔵資料展「としま文学プロムナード」で、文学・マンガ分野担当の学芸研究員が企画しました。常設展示室内の大きなガラスケース、「大ケース」と呼んでいますけれども、その「大ケース」では、鈴木信太郎記念館コレクション「三人の隠士（いんし）たち」、「一碎巖（さいがん）・春耕（しゅんこう）・碧山（へきざん）」を開催いたしました。令和 6 年 10 月 1 日から 12 月 15 日まで実施いたしました。展示内容は地域と文化をテーマにして、年代を超えて地域ごとに紹介するという事で、東部は稲垣足穂、田村隆一。西部は山手樹一郎、舟崎克彦。北部・中央部は武井武雄、江戸川乱歩。南部は坪田譲治、鈴木三重吉、福沢徹三、大下宇陀児。鈴木信太郎記念館所蔵の美術品や資料を郷土資料館にて初展示ということで、南画家の高森碎巖、西田春耕、青山碧山を紹介しました。関連イベントとして講演会を 2 回実施しています。 3 番目は、令和 6 年度開館 40 周年記念企画展「新・豊島風土記」が、今年の 1 月 11 日から 3 月 16 日まで開催しています。展示内容は常設展示を一部展示替えしまして、縄文時代から江戸時代までの資料を中心に区ゆかりの美術作品と文学資料を展示、併せて学校連携の一環として、小学校 3 年生の郷土学習に対応したまちの移り変わりや人々の暮らしの様子を撮影した景観写真と昭和 30、40 年代をイメージした和室の再現展示で紹介しています。関連イベントは連続講座「豊島区史を読む」や親子でワークショップ「貝合わせを作ってみよう！」、「つるしびなを作ってみよう！」、紙芝居「豊島の民話 ちいさい桶」の上演などを実施しております。 刊行物は、「かたりべ」の 149 号から 151 号がお手元にあるかと思いますが、それらは刊行済みでございます。また、研究紀要『生活と文化 第 34 号』は 3 月 21 日に発刊予定となっております。郷土資料館に関しては以上です。
事	務	局		続きまして、雑司が谷旧宣教師館の令和 6 年度事業についてご報告させ

ていただきます。資料 5 をご覧いただければと思います。8 つの事業についてご報告させていただきます。

まず、1 番目はコンサート事業になります。コンサート事業は当館開館翌年の平成 2 年から続く一番歴史のある事業で、今年度は久々に年 2 回開催することができ、文化財の中で音楽を楽しんでいただきました。5 月のスプリングコンサートではピアニストの宇井紗也香さん、ソプラノ歌手の樋上佳薫さんにご出演いただき、ピアノとソプラノの歌声のコラボレーションを楽しんでいただきました。11 月のオータムコンサートではピアニストの山内のりこさん、サクソフォン奏者の岩渕みずきさん、朗読の語り手として石井環世さんにご出演いただきまして、朗読も含めたコンサートを楽しんでいただきました。スプリングコンサートでは 24 名、オータムコンサートでは 35 名とどちらも想定の定員を上回る方にご来館をいただきましてアンケート等でも好評を得ることができました。

2 番目は、『赤い鳥』と楽しむ、おはなし会』になります。こちらは今年度から年 3 回開催しており、「おばあちゃんのおはなし会」の後継事業として行っております。ボランティアによる豊島区ゆかりの児童図書である『赤い鳥』やその関連作品、その他児童図書の読み聞かせを行っております。1 回目は 2 名、2 回目は 4 名が参加し、3 回目は 3 月 15 日を予定しております。

3 番目は、今年度新たに企画した事業である夏の親子体験「朝顔の押し花でうちわを作ろう」になります。夏休みに親子で旧宣教師館を知って親しみながら、歴史や文化を学んでもらおうということで、変化朝顔の押し花や、江戸時代に流行した紋切り遊びを楽しんでいただきながら、オリジナルのうちわを作成し、3 組 5 名の方にご参加いただきました。

続きまして 4 番は、ナイトミュージアムの開催になります。こちらも今年度新たに企画した事業で、日常とは異なる暗くなってからの建物の外観や内部を見学いただく貴重な機会として、夏と冬の 2 日間、通常開館時間は 4 時半までですが、延長して開館しました。夏は暑さが和らぐ夕涼みの雰囲気、冬はクリスマス飾りとマッチした温かく輝く建物を楽しんでいただきました。また、延長開館の中でそれぞれ当館学芸研究員がギャラリートークを実施して、文化財の見どころをより知っていただくという試みも行っており、夏は 61 名、冬は 42 名の方にご来館いただきました。

5 番目の館内クリスマス飾りについてご説明いたします。こちらは昨年度から始まった館内のクリスマスツリーを初めとしたリースやミニツリーの設置に加え、今年度から正門に大きなクリスマスリース、また、玄関ポーチ階段にポインセチアやゴールドクレストを設置し、屋外にもクリスマスの雰囲気を演出いたしました。資料 26 ページ裏側に参考画像として、食堂の大きなツリーやリースや玄関ポーチを写したものがありませんのでご覧ください。

続いて 6 番目は、ギャラリートークの開催です。こちらは通年通り行っており、当館では毎月第 2 土曜日午後 2 時から 30 分ほど、常設展示では伝えきれない研究成果を含む建物や歴史展示に関する解説をしながら館内をご案内しております。実施日以外にも希望があれば、団体個人問わず随時、解説案内にも対応しております。現在まで 11 回開催、今年度は少し人数も増え、70 名の方にご参加いただいております。今月 3 月 8 日に開催予定となっております。

7 番目のスポットクーラー設置についてご説明いたします。当館は文化財のため、今まで空調設備はございませんでしたが、今年度から夏場の酷暑における来館者の熱中症対策として、現状変更せずに設置可能なスポットクーラーを導入しました。1 階に 2 台、2 階に 1 台の計 3 台を設置し、昨

	年までは夏場のイベント等を休止しておりましたが、今年度はスポットクーラー設置によって支障なく実施できております。 最後に 8 番目の刊行物です。「雑司が谷旧宣教師館だより」の 73 号は発行済みで、3 月中に 74 号の発行を予定しております。宣教師館からの事業報告は以上です。 鈴木信太郎記念館の事業報告をさせていただきます。資料 6 になります。1 番の企画展「信太郎の仲間たち」と題しまして、書斎棟の「信太郎の愛蔵書」コーナーにて展示を行っております。令和 5 年度に展示を作りまして、信太郎および彼と親交のあった仏文学者として辰野隆、山内義雄、小林秀雄、岸田國士の 5 名を紹介しております。ただいま開催中で令和 7 年 7 月 17 日まで開催予定でございます。 続きまして 2 番、豊島区立郷土資料館開館 40 周年記念収蔵資料展「としま文学プロムナード」と併せて鈴木信太郎記念館コレクション「3 人の隠士（いんし）たち—碎巖（さいがん）・春耕（しゅんこう）・碧山（へきざん）—」を開催いたしました。本展では高森碎巖と西田春耕、漆工の青山碧山の初公開作品を中心に鈴木信太郎記念館所蔵の美術品や資料を展示いたしました。展示に際して、郷土資料館常設展示室の「大ケース」を展示会場として活用するなど、郷土資料館並びに分館である当館にとって新たな試みとなりました。会期は 10 月 1 日から 12 月 15 日までとなります。 続きまして 3 番、こちらは同時開催展示の関連事業といたしまして、鈴木信太郎記念館座敷棟床の間で、「秋の特別公開」と題し、南画家・高森碎巖《稚景山水図》掛軸原本の初公開いたしました。開催期間は 11 月 1 日から 7 日までとなります。 続きまして 4 番、その他の事業。「和室で楽しむフランス文学～神田伊織の講談『レ・ミゼラブル』①～」と題し、今年度の区民向け新規事業として、11 月 9 日に開催いたしました。東京大学大学院でフランス文学を専攻した講談師の神田伊織氏による連続講談会第 1 回で、この講談『レ・ミゼラブル』の続編が、3 月 8 日に開催予定となっております。第 1 回は相当数の応募があり、抽選で半数の方が落選したのを受けまして、3 月 8 日には午前・午後の二部制という形で実施する予定であります。 次に、(3) 口演会「マンガトーク & RAKUGO chez(シェ) 信太郎」と題して、第一部に日本とフランスのマンガを題材にしたトークショー、第二部に落語パフォーマンスを行いました。講師はフランス人落語パフォーマーのシリル・コピーニ氏、日仏の文化交流に携わっているフレデリック・トゥルモンド氏にお願いしました。参加人数は 14 人です。 続きまして、「【体験教室】クリスマス・オーナメントづくり」です。館内にあるステンドグラスをモデルにプラスチックの板にモチーフを置き、オーブントースターで焼くというプラ板のオーナメントを作成いたしました。12 月 22 日開催で、会場は座敷棟、参加者は 2 組 5 名のご家族、親子が参加し、大変好評をいただきました。 ギャラリートークは、毎月第 3 土曜日の午後 2 時から 40 分程度、フランス文学と建築両分野の担当学芸研究員によるギャラリートークを開催しております。 刊行物は「鈴木信太郎記念館だより」は今年度第 11 号を発行し、今月には第 12 号の発行を予定しております。以上となります。
事 務 局	続きまして、資料 7 の令和 6 年度トキワ荘通り昭和レトロ館の事業報告です。基本情報は昨年度と同じ施設の概要を書いたものがありますので、読んでいただければと思います。豊島区立昭和歴史文化記念館、愛称はトキワ荘通り昭和レトロ館で、区内の南長崎 3-4-10 に所在しております。令和 4 年 11 月 3 日に開設した施設になりまして、郷土資料館では 2 階部分

			の展示協力をしております。令和 6 年度の展示内容に関しましては、展示室が 1 から 4 まで、いずれもほぼ 6 畳の部屋で、展示室 1 は「矢島勝昭 昭和のくらしギャラリー」、展示室 2 が「昭和のくらし～昭和 40 年頃以降の日常～」という形で和室を再現しています。展示室 3 は「なつかしい昭和のおもかげ～人世横丁・神田川周辺の原風景」ということで、ジオラマ作家の山本高樹氏が制作した人世横丁と神田川のジオラマを 2 つ配置しています。展示室 4 では「高度経済成長期の豊島区～ジオラマでふりかえる昭和の池袋～」ということで、こちらも山本高樹氏が制作した池袋駅東口と西口、現在の Hareza 池袋一帯にあった豊島区役所庁舎、区民センター、豊島公会堂のジオラマを展示しています。 令和 6 年度企画展、体験展示について、レトロ館の中には多目的室 1・2 という貸室がありまして、空きがある期間や区の主催事業は、優先的に展示会をやっております。昨年 7 月 13 日から 8 月 18 日までは体験展示「昭和のおもちゃコレクション」ということで、お手玉やあや取りなど、昭和よりもっと前からあるようなおもちゃを実際に手に取って遊べるような展示をやっております。また、現在も同じような展示を 2 月 22 日から 3 月 23 日まで、多目的室 2 でやっております。11 月 1 日から 2 月 16 日までは企画展「あの頃の給食とデパートでお子様ランチ」をやっております。 最後、来館者数について、これは開館してまだ数年しか経ってないこともありまして、各月の来館者数を挙げております。今年の 2 月終わりぐらいに、累計入館者数が 10 万人を突破したということで、予想以上に早いペースで来館者が増えてきております。令和 6 年度の事業に関しましては以上になります。
浜田委員長			ただいま報告がありました令和 6 年度事業報告に関しまして、ご質問あるいはご意見がありましたら、お願いします。
C 委員			休館日のところで、開館日がだいぶ増えているのですが、皆さんの働き方改革はどうなのでしょう。
事務局			しわ寄せがいかないよう、人員を配置して何とか切り抜けております。
C 事務局			やはり無理がないようにしないといけない。続けて資料 6 の 28 ページなのですが、「和室で楽しむフランス文学」の 1 回目で落選者が出るほど集まったというのは、何が原因だと思いますか。
事務局			座敷棟のキャパが大体 20 名ぐらいが定員ですので、キャパが足りないということになります。
C 事務局			キャパが埋まるほどの人が集まった要因は何だったと思いますか。
事務局			まず、神田伊織さんの講談師としての人気の高さと、鈴木信太郎記念館という歴史的な建造物において日本家屋と伝統文化を同時に楽しむ雰囲気味わえるところでもご興味を持っていただけたのではないかと思います。
C 委員			神田伊織さんは東大の仏文出身ですが、過去の師匠の焼き直しではなく、ご自身でもう一度、原典に当たられてお書きになった新作の『レ・ミゼラブル』の初演でございます。続きものになります。
事務局			これは続きそうで、すごいです。次に、給食とお子様ランチ、私も学校で見て、「これは！」と思いました。この時期はちょうど給食週間で、全国で昭和時代の給食や色々な地域の給食を出している週間なのです。長崎小も学校運営協議会でわざわざ鯨の竜田揚げが出るようにしていて、タイムリーにここを狙ったのかなという感じです。時期にぴったりの内容をやってらっしゃると思っています。
事務局			時期に関しては本当に偶然と言いますか、事前に年間予定の中で組んでいます。としま文化の日というのが 11 月 1 日ですので、そこを会期の始めとして、学校の見学も踏まえると 2 月半ばぐらいまでは同じものをやりました。

			いということもありました。
C	委	員	給食のときにプロジェクターで映して「今日はこういうメニューです」という話を子どもたちにするので、この絵も給食で使えると思いました。それから、「なつかしい昭和のおもかげ」と「昭和の暮らし」というところで、西武園ゆうえんちとタイアップは考えなかったのですか。
事	務	局	西武園ゆうえんちが工夫して設えているレトロ感覚のようなものは、頭の片隅に置きながら準備したつもりです。
事	務	局	トキワ荘通り昭和レトロ館の開館前に高野区長と区幹部、私と学芸員で視察に行き、参考にはしております。
C	委	員	せっかく西武線で繋がっているのでコラボできると面白いと思いました。ありがとうございます。
B	委	員	トキワ荘通り昭和レトロ館は展示協力の関係ですが、豊島区立郷土資料館運営委員会は、旧宣教師館、鈴木信太郎記念館とレトロ館の運営委員会を兼ねているということですか。
事	務	局	左様です。
B	委	員	そうすると会議のタイトルは郷土資料館ですけど、この4館と一緒に議論していくということでもよろしいでしょうか。
事	務	局	はい。よろしくお願いいたします。
B	委	員	来年度からの組織替え後もこれは継続するのですか。来年度の委員会も郷土資料館と3館について協議するというわけですか。
文化デザイン課長			令和7年度、トキワ荘通り昭和レトロ館だけ所管替えをしますので、郷土資料館と分館にあたる雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館についてご議論いただく形になります。
B	委	員	わかりました。
事	務	局	今年度はトキワ荘通り昭和レトロ館も含みますけれども、令和7年度からは外れます。
B	委	員	トキワ荘を復元した展示施設はこちらの所管ではないということでしたか。
文化デザイン課長			そうです。
事	務	局	元々、文化観光課の部署で、開設のときに一時期、準備という形で1年間兼務していました。開館後も文学・マンガ分野のマンガ資料や郷土資料館の資料を長期に貸し出して展示協力しましたが、現在は関わりはありません。
B	委	員	わかりました。その上でいくつかお伺いしたいのですけれども、まず、旧宣教師館のコンサートは一番古くからやってらっしゃるけど、これは何年からやっていて、今何回目ぐらいなのですか。
事	務	局	旧宣教師館は平成元年1月に開館いたしまして、その翌年の平成2年から行っております。ただ、その事業の形態としては少し変遷がございます。最初は地域の方々が当館で「花のガーデンコンサート」という形で行われていた事業が変遷し、現在、当館のメイン事業として春と秋にコンサートを開催しております。何回開催をしているかという点に関しては、今お答えする資料がございません。
B	委	員	わかりました。新規事業として、資料5の2番、3番、4番ですかね。それから資料4の24ページ(3)③関連イベントで、親子でワークショップ「貝合わせを作ってみよう！」がありますが、これは何の関連でしょうか。40周年記念企画展の関連イベントということでしょうか。
事	務	局	お手元にお配りしている「新・豊島風土記」のチラシをご覧いただきたいのですが、チラシの裏側に関連イベントということで、連続講座「豊島区史を読む」と親子でワークショップが掲載されています。
B	委	員	企画展と貝合わせはどう関連するのですか。

事	務	局	後ほどご覧いただく企画展に昭和 30、40 年代をイメージした和室の再現展示がありますが、2 月中旬から会期いっぱいまで、ひな祭りの段飾りをしています。貝合わせというのは、平安時代からの遊びではあるのですが、ひな祭りにかけて、古代担当の学芸員が貝合わせを初めて郷土資料館でやることになりました。実際の蛤の貝を用意して、作った後も貝合わせの遊びができるものです。つるしびなはお雛様のひな飾りをイメージして、「はんこペタペタ！」という今までやってきたワークショップを応用したものになります。
B	委	員	ワークショップというのが、今どの博物館もかなり色々な工夫を凝らしているのですが、やはり博物館や資料館だと学校教育の対極にある社会教育施設として支援事業をやるわけですから、やり方があると思うのです。例えば、私は埼玉県にいますけれども、埼玉県内の市区町村の資料館とか博物館でも一番最近よく見かけるのが勾玉作りとか、最初から作り始めてできたら持って帰ろうという。やはり博物館のワークショップ関連事業というのは、その前段、もうワンクッション欠かすべきではないだろうと私は考えているのです。 ちょうど平安時代の貝合わせの話も出ましたが、大河ドラマ「光る君へ」を見ていて、子どもたちが気づいているかどうかかわかりませんが、奈良時代から平安時代の女性は日本の女性史の中で唯一装身具を身に着けない時代なのですよ。ペンダントもネックレスも髪飾りもね。あんなに縄文、古墳まであったのが、奈良時代から、多分髪飾りなんかはあったかもしれませんが、十二単の平安貴族の女性に装身具が一切ない時代ですよ。そういうこうセクシュアリティの時代ごとの移り変わりみたいなレクチャーを最初にして、アクセサリーを持つ人がどう変わっていくかを話した上であなたが作る。そういうのが博物館のワークショップだと思うのです。 色々なイベント、生涯学習はやればやるほど受けるわけですし、予算と先ほどの C 委員から体制の問題がありましたけれども、やはり広げることによって際限がなくなりますけれども。どういう目的を持って、どういう狙いのために。まず、学校の授業でいけば指導とかあるわけですが。そこまでいなくても、ワークショップというのは、やはり社会教育機関としての博物館でやる意義というのを主催者側は理解して考えてやるべきだし、単なる冷やかしかとか集客のためというのとはあまり好ましくないと思うのです。それは他の公民館とかコミュニティセンターなんかでも住み分けの問題とかありますし。旧宣教師館のコンサートとかね、もう平成 2 年からやっているというのもとても重要で定着しているのだと思います。 豊島区として一つの看板になるようなワークショップやイベントはそれを謳った方がいいと思うのです。例えば、N 響の定期公演は確か 2000 回超えているのです。通し番号やマークを入れるとか、「かたりべ」だって今すごいですが、151 号ですか。こんな長く続いている博物館の情報紙、リーフレットはなかなかないと思いますけれどね。だから、豊島区が一つの見識を持って長く続けてきたイベントや刊行物というのはそれをきちんと謳って、それから 1 回限りのものは 1 回限りのものとしてやってもいいと思いますけれど。やはり主催者側が意識してワークショップの本来の目的をきちんと企画段階から考えて、実施段階で実物資料を使うなど、資料館の使命ですからね。 私が学芸員になった頃は博物館での講演会は必ず実物を手に取って、例えば、縄文土器を持って話をするとか。あるいは美術館だと、やはりギャラリーに出て、作品を前にする、そういうのが欠かせないって話をよく教わったわけですが、今は安易にパワーポイントだけ使う博物館はい

事	務	局	っぱいありますけれどね。それは本来の博物館の講演会ではないと思います。展示室と講演会場を繋ぐようなものがないといけないと思います。豊島区立郷土資料館は23区の中でも老舗ですから、その辺はやっぱりぜひ意識して、学芸員の方もたくさんいらっしゃるしね、やっていただけると嬉しいなと思いますけれど。
B	委	員	今の先生のご意見はごもっともだと私達も思っていて、集客だけを考えている企画ではなく、資料館の常設展示で抜けていた縄文、古代、中世の展示を今回企画展で紹介する中で、古代に限らず、昔の遊びについては、展示資料にないものでも、昔の遊びの文化とか歴史をやはり紹介する必要があると思います。今回は古代、古典文学専門の学芸員がレクチャー用の資料を用意して、まず貝合わせの文化や歴史を話した上で皆さんにやってもらっています。「どうしてこういうことをやろうとしているか」という意図は学芸で準備してやるように心がけています。
B	務	局	大事なことです。 郷土資料館は子ども向けや親子向けのワークショップが今まで少なく、非常に弱い部分でしたので、今は若い学芸員が挑戦して、その中でいいものがどんどん定着していくと思います。色々な試みを挑戦したいということで、先生のご意見はごもっともだと思います。そのあたりも意識していきたいと思います。ありがとうございました。
B	委	員	以前の新しいミュージアムの構想委員会でも発言したと思うのですが、豊島区の持っている強みというか、区内に大学があります。立教大学、学習院大学、目白大学、大正大学も。そういうところとのコラボレーションとか。大学も今のご案内のように受験する高校生が減少していて受験生獲得のために、社会人向けに立教大学もご存じの通り、セカンドステージ大学、都立大学ではプレミアム・カレッジとか、やはり学び直し、リカレントに力を入れています。そういうところと豊島区の社会教育とのコラボレーションという可能性があります。大学がない自治体はやりたくてもできないわけです。埼玉はいっぱいありますけれども。その大学とのコラボが一つ。
浜	田	委	それから、各地で自治体史編纂が始まっています。埼玉の熊谷市、さいたま市とか、豊島区が今どうなっているのかわからないのですが、やはり区史編纂、熊谷市のように大きなものを作るところもあれば、最近多いのが市制施行40周年とか50周年記念の写真集、品川はそうです。新しい資料をさらに増やすためにあると思いますので、豊島区でも、ぜひコラボレーションしていただくといいかなと思います。
員	長	長	この会議は年に1回しかないもので、色々な意見が委員会からあると思います。今のB委員の内容についても、今後、区で検討していただけると良いと思っております。他の委員から何かございますか。
D	委	員	先ほど、花のガーデンコンサートの話が出ましたが、第1回目から私も参加させていただいております。母の日のコンサートが始まりなのです。それで地元のおばさんたちがご協力させていただいて何人かで集まって椅子の運び出しなどをやったのが始まりで、だんだん年を取って自分たちでするのが難しくなって、館の方をお願いしたら、年に2回ずつやってくださっています。
			それから、先ほどの神田伊織先生のことなのですが、雑司が谷で講談教室をつくってくださって、それから伊織先生は有楽町で自分の枳台を持ってやってらっしゃるのですよね。だから、そういうところにいらしての方が参加なさっているのではないかなと。講談教室に参加なさった方たち、みんないらっしゃるって言うていましたので。実際に体験している人なので。私は講談を聞くのが面白いのですが、私以外の5、6人は全部

事	務	局	みんな 1 回自分で作ったものを先生に見ていただいて、講談なさっています。 雑司が谷地域文化創造館の事業で、神田伊織さんが講師になって、地元で講談を作ろうということで始めたのですね。その前提として、区の歴史を別の講師が 2 回ぐらいレクチャーした上で、3・4 ヶ月ぐらいかけて「講談を作りましょう」という長い講座でかなり評判が良いのではないかと思います。
D	委	員	自分たちで自主的にやる講座みたいです。こちらの元学芸員だった伊藤暢直さんが豊島区の歴史の話をなさって、その中からみんな自分の持ち味で自作自演なのです。
B	委	員	すごいですね。
浜	田	委 員 長	はい、ありがとうございます。私もコンサートと講談の人々をどうやって呼んだのかについて質問しようと思っていたのですが、今のお話でよく背景がわかりました。ありがとうございます。A 委員から何かございますか。
A	委	員	私はこれらの企画を見てなくて、申し訳ないというように思っ小さくなっていたところでした。でも B 委員の話を聞いて、色々な刺激のある話をしてくれるなと思って聞いていたのですが、私から言うとなると、「豊島大博覧会」が、あれがとっても記憶に残っていて、良いものを作ってくれたものだというように思っているわけ。あれが良かったのは、一つはあの会場狭いでしょう。何を飾ってもごちゃごちゃになっちゃうという。それが逆に有利に働いて、美術やら郷土の様々な歴史がごちゃごちゃに入っている。私、美術の担当なのですが、そっちから見ても他の分野のことがとっても新鮮に見えてね。戦後生活の局面を再現したものに至るまで面白いと思ったの。 要するに、新美術館構想の実現しない現状においては、その状況でも良いやり方をしたらと。それで少し考えているのだけれど、ここに幾つもの、とてもユニークで専門的な、でも小さな施設があるわけですよ。これ大切ですよ。でも、専門性がとても大切だっていうので、専門の中にめり込んじゃうと、これはあんまり私にとってはね、大切なものに見えないわけ。それを交流して、つけたり離したり、企画をする側がつけたり離したりではなくて、自然にくっついたり、離れたりしてね。融通無碍の、何か面白い専門性をお互いに公開し合ったりしながら。それを言えば、別に区の中に取り込むという必要もなくて、練馬とか、大塚超えて向こうとか、そういう交流も可能だと思うのだけれど、そういうことのできるスペースはここにあるのでね。なんか勝手に動いて、思いがけないものがこの中に成立することが生じると刺激的だなんて本当に。話は具体的なことではないのだけれど。
C	委	員	A 委員がおっしゃっていたみたいに、一つのことで何かできないのかなってというのは思ったのです。なんか 1 個 1 個が全部独立しているのは良いのですけれど、一つのテーマとか、一つのことで何かできないのですか。
A	委	員	大博覧会的なものを全部いっぺんにできると面白いですよね。
事	務	局	90 周年の時には、一つのテーマに向けて、90 周年を表すような形で雑司が谷旧宣教師館と鈴木信太郎記念館もトータルのイメージがございました。現在、それぞれですが、そういう可能性も探っていかなければいけないと両委員からお伺いし、思っているところでございます。
B	委	員	新ミュージアムの話の続きで資料収蔵場所の件ですけれど、こちらの 7 階と美術作品は現地環境の良い倉庫を借りてらっしゃいましたよね。
事	務	局	北区の。
B	委	員	北区と飯能と。3 か所で今もやってらっしゃるのですか。

事 B	務 委	局 員	そうです。 飯能は距離的に遠いし、日常的な管理、常駐する人もいないということで色々な危惧する意見も出たと思うのですが、運用してみてどうですか。3か所の収蔵施設の状況はいかがですか。
事	務	局	温湿度管理はもちろんできない施設ですけれども、5月末から台風シーズンが終わるまで除湿機をかけています。その除湿機は温度コントロールもある程度できるのですが、冬の時期は加湿機能がございません。かなり電気代がかかりますので、何とか除湿機で高湿度をコントロールしておりますが、加湿ができないので、50%ぐらいにずっと保っておくというようなことはできません。やはり、絵画とか紙資料は難しいのですが、生活資料は何とかいけるのではないかと判断しています。
事	務	局	プレハブですが、2階建てで、2階だけでも1700平米くらいで結構広い。それこそ博物館が建つぐらいの広さなのですから、意外と温度が安定しているということがわかってきましたが、先ほど館長が言ったように湿度だけはどうしても調整がなかなか難しいです。あと、月に4回学芸業務調査員と学芸研究員が現地に行って棚卸作業や今回のような企画展で300点以上の資料を持ってくるための作業などもやっていますので、週1回ぐらいは飯能に行って各資料の様子を見ながら続けております。どうしても展示の準備や搬送作業にはやはり時間と費用がかかるので、かなり業務量として負担になっています。
事 B	務 委	局 員	なかなか手間ではございますが、資料を保管するのには、もちろんIPMをやっておりますので、そのために職員が行かなければいけません。 ランニングコストというかね、維持管理費を10年もすれば、一軒建つのじゃないかということも以前話したと思うのですが。それから、10年前20年前と違う色々な新しい犯罪。倉庫に入って大量に盗まれたり、農園から果物が盗まれたりとかセキュリティの問題ですよ。心無い人が「何か貴重なものがあるのでは」ということで、押し入ろうとした痕跡があるとか、そういうことがないといいのですが。
事 B	務 委	局 員	機械警備でそのような反応は、今のところ一度もございません。 その辺は昔、議論があつてね。ちょっと心配していたところなので、うまくいっていると聞いて安心いたしました。
浜 田	委 員	長	最後に私から一つだけ、昨年度の事業報告を聞いていまして、少し心配だったのは職員の皆さんの労働環境です。開館日数も増えたみたいなのですが、各館とも職員が本当にごく少数です。地方の博物館行くと、職員が3人しかいないと、ある職員が休んでしまうと1人勤務になって実はトイレも行けないという話を聞いたことがあります。そのようなことが豊島区で起こらないよう、ぜひうまくローテーションを組んで勤務体制を確保してほしいと思っております。
事 浜	務 委	局 員	それからもう一つが、旧宣教師館でようやくスポットクーラーが入ったという話が出たのですが、事務室の冷暖房はどうなっているのでしょうか。
事 浜	務 委	局 員	事務室は別棟になっておりますので、冷暖房は効いております。
事 浜	務 委	局 員	そうですか。職員も冷房がないと大変だなと思ったのですが、わかりました。来館者に向けて過ごしやすい環境を提供していただけると良いと思います。
事 浜	務 委	局 員	ありがとうございます。 昨年度の事業報告については以上で、皆さんからのご意見はよろしいでしょうか。ここで開館40周年記念企画展「新・豊島風土記」の展示をご覧いただくということになっておりますので、事務局でご案内をお願いいたします。

事	務	局	では委員の皆様、7 階にエレベーターで上がっていただきます。各学芸員は、ご案内をお願いいたします。
			(企画展「新・豊島風土記」見学)
浜	田	委 員 長	お疲れ様でした。企画展をご覧いただきました。各委員からコメントをいただければと思います。では順番にC委員からよろしいでしょうか。
C		委 員	やはり子どもたちを連れて来たいなと思います。高野区長時代に先ほどおっしゃっていた大博覧会のときに全校のバスを負担いただいた。教育委員会でもそういうことができればいいのにとおっしゃいます。
C		委 員 長	少し見ただけですが、もう一度観に行きたいなと思います。
浜	田	委 員 長	展示を見るたびに思うのですが、この資料館も活動年数がとても長いので資料が大変豊富なのですね。いい資料がたくさんあると思うのですが、やはり展示スペースが狭いので、展示論的に言うとちょっと詰め過ぎかなという感じの展示なので、もっと広い展示スペースがあれば良いなというのは毎回見て思うところです。あと、結構立派に展示が作られているのですけれども、これは委託料で制作されているのですか。
事	務	局	年に1回企画展の予算は印刷、展示全て含めて600万円ほどあります。企画展だけに使うということでもないのですが、収蔵資料展は全部手作りでパネルやキャプションを作っていますので、企画展1回ぐらいは自分たちでできないこともやりたいということでやっています。
浜	田	委 員 長	しっかり展示制作ができていたと思いますので、良い展示だったと思います。では、B委員。
B		委 員	私は文学、漫画の専門なのですが、駒場に日本近代文学館がありますけれど、あそこは全国区の近代文学の資料収集で、ご記憶の方がいらっしゃるかどうか、同じ公園の中に東京都近代文学館（東京都近代文学博物館）があったのです。石原都知事がそれを壊しまして心配していたのですが、最近、豊島区もこうやって文学資料もだいぶ充実してきました。23区時々お邪魔すると、それぞれご自分の区ゆかりの文学者を取り上げていて、この前も江東区に行ったら、石田波郷の展示をやっていて、東京都が文学資料館（東京都近代文学博物館）を閉鎖したのですが、23区はよくやっているなと思って。
			こちら最初も最初は資料がなくて困っていたのですが、前回は「としま文学プロムナード」展を拝見して、だいぶ増えてきたなと思って。展示は浜田委員長が今おっしゃったように、限りあるスペースを歴史資料、考古資料、民俗資料、文学資料、絵画資料が取り合うような形になるのだと思いますけれどね。区民の方がここに来れば、必ず違う展示をやっているというのも、一つの見識だと思うので、頑張ってください。ありがとうございました。
D		委 員	先ほど鶴田吾郎さんの例がありましたけど、奥様のところに行ってお話を聞いて、絵を回遊美術館のときにお借りしたのを思い出して懐かしくなりました。それから、小熊秀雄さんの色鉛筆で書いた絵を初めて見ましたので、すごく楽しく拝見させていただきました。時間があるときにゆっくり見させていただきたいなと思います。
浜	田	委 員 長	あと、今回はグッズも作られたということで、企画展で作るのはすごいなと思います。多分売れるのではと思いますけれども、売り上げはどのようなのですか。
事	務	局	売り上げはじわじわと売れるように。
B		委 員	「乱歩のマグネット、大丈夫だったの」と文学・マンガ分野の学芸員に聞いたら、それなりに売れましたと言っていたので担当学芸員が買い取りしなくて良かったです。

浜田委員長	皆さんコメントありがとうございました。ぜひ館でご参考にしてください。それでは最後の議事になりますが、次第4の令和7年度事業計画につきまして事務局から説明をお願いいたします。
事務局	それでは先ほどの実績報告と同じように、郷土資料館、雑司が谷旧宣教師館、鈴木信太郎記念館、トキワ荘通り昭和レトロ館の順に来年度の事業計画についてご説明させていただきます。
事務局	資料8の31ページをご覧ください。郷土資料館の展示に関しては4月から9月の郷土を中心とした収蔵資料展、10月から12月の美術の企画展、1月から3月の郷土の収蔵資料展の3本を予定しています。それから、見どころ解説、5月31日の池袋モンパルナス回遊美術館の記念講演会、企画展、収蔵資料展に関連した事業などを予定しています。刊行物は館だよりの「かたりべ」、研究紀要、企画展の図録、グッズなども製作する予定です。
事務局	雑司が谷旧宣教師館の継続事業といたしまして、1番目にスプリングコンサート、こちらは令和7年5月11日に予定しております。タイトルは「旧宣教師館スプリングコンサートーピアノと琴のマリアージュ」、出演はピアノ：小林萌里さん、琴：東海林一代さんのお二人によるピアノコンサートとなります。2番目にオータムコンサートとして令和7年10月から11月の開催で、内容につきましてはこれから詰めていく予定になっております。3番目として『赤い鳥』と楽しむ、おはなし会、こちらは今年度と同じ石井環世さんをお願いし、7月、10月、3月の年3回開催を予定しております。その他に、月1回第2土曜日に開催しているギャラリートーク、夏の体験事業、本年度と同じクリスマスの装飾とナイトミュージアムの継続開催も予定しております。新規事業といたしまして、立教大学のハンドベルクワイアによるハンドベルコンサートを12月のナイトミュージアムに開催する予定になっております。こちらにつきましては、明日、現地にて打ち合わせを予定しています。
事務局	鈴木信太郎記念館の企画展示とそれ以外の事業ということで記載させていただきました。1番目の企画展示につきましては「パリの信太郎 en 1925—100年前の留学事情—」というタイトルを冠しまして、今年は信太郎のフランス留学から100年の節目の年となることを記念しまして、その留学生活を当時の資料を通じて紹介するという展示を考えております。会期は来年度の4月下旬からその次の年の4月までの1年間通年を予定しております。2番目の事業については、展示関連事業と冒頭にありますけれども、こちらは1番目の企画展示に関連して講演や特別なギャラリートークといったものができれば良いなと思っております。それに加えて、落語の講演会、クリスマス・オーナメント作り、ギャラリートーク、刊行物の発行、こちらは継続して実施してまいります。現在、としま未来文化財団と学習院大学と当館という3者の共同主催の事業を準備しております。5月から6月の土曜日全8回の連続講座ということで「フランス文学とフランス文化に親しむ3」を開催する予定であります。
事務局	続きまして、資料7の30ページ、トキワ荘通り昭和レトロ館の令和7年度事業報告の5番目ということで、こちらは先ほど文化デザイン課長から説明がありましたけれども、令和7年4月に実施される区の組織改正に伴いまして、トキワ荘通り昭和レトロ館の所管部署が、郷土資料館から文化スポーツ部文化事業課文化事業運営グループ、現在の文化商工部文化デザイン課文化事業運営グループに変更となることが決まっております。多目的室1、2の使用手続き等はもちろん、事業展開についても同グループが担うこととなります。そのため、郷土資料館が担当するのは常設部分の展示室1から4のみになりまして、各展示室の季節ごとの展示替えですとか、あるいはジオラマの維持管理等が主な業務となる見通しになっております。

事務局

す。

資料 9 をご覧いただければと思います。郷土資料館では、令和 7 年度収蔵資料展として戦後 80 年収蔵資料展「変わりゆく日常 ―戦時下の区民生活―」というタイトルで展示を企画しております。会期につきましては、4 月 26 日から 9 月 15 日までを予定しております。

展示概要についてですが、令和 7 年は終戦から 80 年の年に当たりますので、これまで郷土資料館で行ってきた戦争をテーマにした展示を振り返るとともに、1985 年度、1986 年度、1989 年度に開催した企画展「戦中戦後の区民生活」をベースに銃後における区民の生活に焦点を当ててまいります。また、今までは郷土分野単独の戦争展示でしたが、今回は 3 分野共同で行う予定です。そのため、郷土分野からは隣組や防空関連、国民服やもんぺなどの資料、美術分野からはスケッチや絵画作品、文学・マンガ分野からは戦時中に発行された雑誌、紙芝居、文学者の資料を展示し、戦時下での生活や日常をより多角的に捉える展示をしたいと思います。続いて展示構成についてですが、今回、企画展示室と大ケースの 2 つを利用して展示を行います。企画展示室では 1 章から 4 章まで、大ケースでは美術分野を中心に 5 章という形にしております。また、レファレンスルームでは、城北大空襲の被害に遭った方々の追悼会を毎年 4 月 13 日に行っております「4・13 根津山小さな追悼会」の紹介をパネル展示で行います。

続いて、関連イベントについてです。展示見どころ解説は毎月第 4 土曜日に展示解説を行っておりまして、今回の収蔵資料展では一般向けの解説を 4 月から 6 月まで、子供向けの解説を夏休み期間の 7 月から 8 月に設けております。講演会は、豊島区立郷土資料館で長年、学芸員として勤務されておりました青木哲夫氏による講演会を予定しております。内容につきましては、青木哲夫氏が長年研究しておりました学童疎開をテーマに講演いただく予定です。また映画上映会につきましては、東京大空襲、学童疎開を扱った映像作品を 7 月から 8 月の夏休み期間中に上映を予定しております。

最後に制作物についてですが、ポスター、チラシ、リーフレットは 4 月初め頃の完成を予定しております。

事務局

資料 10 をご覧くださいませ。令和 7 年度企画展「生誕 110 周年 鈴木新夫展」とございしますが、昨年度の運営委員会にご出席の方には、本来は今年ではなかったかと思われると思うのですが、美術担当学芸員が 2 人とも今年度変わりました。そういったこともございまして、2025 年中が 110 周年ということございしますので、令和 7 年度の秋に延期をさせていただきまして準備を進めているところでございます。

鈴木新夫氏は福島県いわき市出身で旧制磐城中学校、今の県立磐城高等学校を卒業後、東京美術学校受験のために上京しまして、東京美術学校図画師範科に入学いたしました。なぜ図画師範科にというところですが、本来であれば油画に入りたかったのですが、将来を心配されましたご家族によって、ここが妥協点だったということで図画師範科を選ばれたそうです。磐城中学校同期の若松光一郎さんと一緒に共同で豊島区にアトリエを借り、制作をされておられました。学校卒業後、函館に教師として派遣されますが、再びこちらに戻られまして、さくらが丘パルテノンに転居してから今もご遺族はそちらにお住まいになられています。逝去までこちらで制作を続けてこられました。主に新制作協会で作品を発表されている方でございます。鈴木新夫さんの生きた時代は、戦前から戦後にかけてですけれども、日本美術業界でも具象から抽象の色々な技術手法が出てくる時代でございます。その中で「具象というものは」ということを命題のようにしてデッサンを丹念に続けてこられた作家の方でございます。

昨年度、前任によって2点、豊島区で収蔵いたしました。いわきでは有名な方なのですが、東京ではなかなかご覧になることはないと思います。この2点に加えまして、いわき市立美術館からお借りしまして、また、ご遺族のところはかなり多くの資料が残っております。作品は主にご遺族からお借りする予定でございます。

展示構成としましては、いわきへの思いが感じられるような作品ですとか、あと常磐炭鉱ですね、池袋モンパルナスの作家たちが皆でスケッチに行ったということもございます。常磐炭鉱の風景や途中で風景から人物に描く対象が変わってこられるのですが、そういった人物が描かれている作品を主に展示する予定でございます。製作物としましては図録ですとかグッズを製作する予定でございます。関連イベントとしまして、としま文化の日ウィーク、11月1日から7日の前後にかけまして、2回ほど講演会を予定しております。1回目はいわきにご協力いただきまして、講演をしていただきます。2回目は修復について。実は今、収蔵した作品を今年度修復いたしました。そういった修復についてのお話をさせていただく予定でございます。ワークショップについて、誰もが参加できる工作教室とあります。この作家が街中で散歩をして拾ったものをコラージュに使って制作をされていたことと、豊島区は幸いにもすぐ近くに創形美術学校がございまして、こちらの学校に協力をいただきましてデッサン教室のようなものを考えております。

そして、ギャラリートークもご参加いただく方と対話をしながらのギャラリートークができればというふうに考えております。広報につきましては、ポスター・チラシですとか一般的なものに加えまして、鈴木新夫さんの関係するいわきですとか、そういったところへも広報を広げていく予定でございます。

浜田委員長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局から来年度の事業計画を一通りご報告いただきましたが、ご質問、ご意見がありましたら、よろしく願いいたします。

先ほど、昭和レトロ館が所管外になるというお話でしたが、所管課自体は資料館と同じで、グループ名が変わるということによろしいでしょうか。

事務局
浜田委員長

はい、担当グループが変わります。

わかりました。それからもう一つ、今年は昭和100年、戦後80年なので、色々な博物館でその手の特別展が開催されると聞いております。豊島区はやはり長年の歴史を見ていくと、戦中戦後のヤミ市とか暮らしの変化というのが強みなのかなと思います。この内容の企画展であれば、特徴を出せるような内容だと思います。また展示が始まったらぜひ見学に行きたいと思っております。他の委員からもご意見をどうぞ。

B 委員

今の件ですけれど、23区で同じテーマでやるという博物館があったら、相互にチラシを置きあうとか巡回のイベントをやるとか、文学・マンガ分野の学芸員はご存知だと思いますけれど、東日本大震災の後、全国の文学館で災害をテーマに共通の展覧会やりましたよね。今年は本当に色々なメモリアルなのですね。ウィンウィンで、皆さん共存共栄できそうな企画も大変だと思いますけれど。あまり負担にならない範囲でチラシの片隅に他館の関連展示を紹介しあうとか、そういうことをやられたらいいなと思います。浜田委員長がおっしゃったことで思い出しました。

浜田委員長

他に何かご意見等はございますか。予定時間を過ぎてしまったのですが、議題については以上で一通り終わりました。最後になりますが、委員の皆様から全体を通して何かご意見ですとか、ご質問があればお出しいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。特にないでしょうか。そうしましたら、次回開催予定について事務局からお願いいたします。

事	務	局	令和7年度の企画展「鈴木新夫展」の会期が10月21から12月14日です ので、この期間に皆様にご覧いただき、また講評をいただきたいと考 えております。
浜	田	委 員 長	わかりました。毎年、年に1回だけの会議なので、なかなか委員の皆 さんも意見が溜まっているのかなと思いますけれど、今後可能であれば、複 数回開催いただけるとより色々な情報が委員からも出てくるかなという ように思っております。それでは、これで令和6年度の郷土資料館運営委員 会を終了したいと思います、皆さんお疲れ様でした。
一		同	ありがとうございました。